教師が「話す」授業から　教師が「みる」「きく」「つなぐ」授業へ

「学びの変革」通信

福島県教育庁
いわき教育事務所
学校教育課
No.１９　R８．１０．２１

算数・数学科授業研究会



９月１７日（木）に好間第一小学校を会場として、「第２回算数・数学科授業研究会」が実施されました。

◆単元名　分数と小数、整数の関係を調べよう
◆単元の目標
○　整数の除法の結果は分数を用いると１つの数で表せることを理解するとともに、整数及び小数を分数の形に直したり、分数を小数で表したりすることができる。
○　分数の表現に着目し、分数を整数の除法の結果としてとらえたり、分数の意味を拡張して考え表現したりすることができる。
○　整数の除法の結果を分数で表したり、分数と小数、整数の関係を考えたりした過程や結果を振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、整数や小数、分数のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

以下は、今回の授業公開や研究協議会から見えてきた「教師が『話す』授業から、教師が『みる』『きく』『つなぐ』授業へ」の授業改善の視点となります。各校でも是非話題にしてみてください。



6　指導過程（本時　3/6）

学習内容・活動	○指導上の留意点
1　本時の課題をつかむ。 □mのリボンをもとにすると、○mのリボンの長さは何倍？	○　各色のリボンの長さが分かりや 示する。 ○　リボンの長さは、赤5m、黄4 mとする。
（1）赤のリボンをもとにしたとき ①　緑のリボンの長さは、何倍? 2倍（整数倍） 長さは、何倍? 0．8倍（小数倍） 4/5（倍）（分数倍?） と表してもいいのかな?	○　赤のリボンの長さをもとにしたとき、緑のリボンの長さは何倍か、整数倍を求めさせる。 ○　赤のリボンの 長さは何倍か、 させ、求めさせ ○　小数倍で求め らも取り上げる。 学習していない うこと、それぞれとの大きさがいくつ分 いということから4／5倍と表してよいかを よう促す。
追究する。 しをもつ。 係を図に表すとどうなるかな。 4／5は、同じ大きさの数なのか	○　一人で追究の際、課題解決の手立てに困って 童がいるときは、既習の る。（数直線等） ○　全体共有の前に自由 考えを伝えることで、友 もたせたり、考えを深め ○　図に表すことで、小数 であることをとらえさせ が4／5にあたるという倍の意味を理解し ●　分数を倍として表すことができるの意味を理解し 既習の整数倍や小数倍の意味と関連づけて考え、説明 できる。（観察・ノート）
いて一人で追究する。 学びを深める。 いて、小数倍も分数倍も同じ数量の っていることをとらえる。 1とみたとき、4mが4／5にあた るという分数倍の意味をとらえる。	
課題について振り返る。 1）本時のまとめをする。 倍の数は、整数の倍や小数の倍と同じように、 数の倍でも表すことができる。	
2）適用問題に取り組む。 ①　青のリボンをもとにすると、黄のリボンの	○　適用問題に取り組むこと ているかを見取る。 ○　わりきれずに小数倍で り上げることで、分数倍を として倍を表せるよさに気
青のリボンの	

前時までの学習（掲示物）が整っており、それを生かしながらペアやグループで話し合う姿が見られた。

４本のリボンのうち「一番比べやすいもの」から取りかかることで、学習のスタートラインがそろっていた。







一人の児童にすべての説明をさせないことで、考えを全体に広げようとしていた。

分数倍や小数倍を数直線を活用しながら、数の概念を一生懸命に考え、説明しようとする姿が見られた。





適用問題で分数（４/６）と小数（0.66…）を比較することで、児童自ら分数で表すよさに気づくことができた。

「見える化」ができていた。数直線で表すことで、同じ数量であることに気づいていた。



【研修者の感想より】
教師も児童も楽しく過ごす授業にしたい。そのためには、何より教師が笑顔で児童と接することであり、児童が自身のよさを実感できる学級経営が大切だと感じた。あたたかな声がけをすることで、どの子も「やってみたい」「がんばりたい」と思えるようにしたい。